

指導課短信

1 学び直しの機会の設定

義務教育段階における学習内容の確実な定着を図るための指導に力を入れている学校は少なくありません。多くの学校では、授業の最初などに中学校の復習の場面を設けています。こうした指導の工夫は大切なことですが、高等学校本来の内容を指導する時間が短くなってしまふという点も見逃せません。昨年12月に提出された平成24年度教育課程の素案では、全日制の課程において、必履修科目になった「数学Ⅰ」の履修前に、義務教育段階の学び直しの科目を設けたり、それに伴って「数学Ⅰ」を1、2年で分割履修するような教育課程を編成した学校はありませんでした。定時制の課程においては、1年で義務教育段階の学び直しを行った後、「数学Ⅰ」を2、3年で分割履修する学校がありました。教育課程を工夫することで生徒の学びを改善するという視点から、今後も検討していく必要があるのではないのでしょうか。

2 千葉県高等学校

教育課程研究協議会

去る7月29日(金)、千葉女子高等学校において、千葉県高等学校教育課程研究協議会が開催されました。

講師として、吉田圭介校長先生をはじめ、弓削直樹校長先生、小林中先生、横田弘之先生をお迎えし、以下のような内容で行われました。

説明Ⅰ 「新学習指導要領と
教育課程の編成について」
「教育課程状況について」
教育庁指導課 永田潤一郎

説明Ⅱ 「来年度から先行実施される
『数学Ⅰ』の指導のポイント」
野田中央高等学校 小林中先生

説明Ⅲ 「来年度から先行実施される
『数学A』の指導のポイント」
四街道高等学校 横田弘之先生

発表Ⅰ 「数学的な思考力・判断力・表現力を
深める授業実践」
県立船橋高等学校 田口亜紀子先生

発表Ⅱ 「義務教育段階の学習内容の
確実な定着を目指す指導の工夫」
大網高等学校 麻生裕司先生

発表Ⅲ 「音声計算を通した
基礎学力定着のための授業実践」
館山総合高等学校 粕谷真由美先生

説明Ⅰでは、永田指導主事から、新学習指導要領改訂の基本的な考え方や、千葉県県立高等学校の教育課程編成方針について説明がありました。これに関連して、平成24年度教育課程の素案を基に、各学校における履修単位数と修得単位数の状況等について説明がありました。また、学習指導要領改訂の経緯を振り返りながら、来年度からの先行実施に向けて、指導上考えておくべきことについて説明がありました。

説明Ⅱでは、小林先生から、新しい「数学Ⅰ」の指導のポイントについて、現行課程との相違点や具体的な指導内容などを取り上げて詳しい説明がありました。また、新しい内容である「データの分析」や「課題学習」を指導する上で留意すべき点について具体的な指摘がありました。

昼食、休憩を挟み、説明 III では、横田先生から、新しい「数学 A」の指導のポイントについて、中学校における指導内容との関係や科目の目標などを取り上げて詳しい説明がありました。また、新しい内容である平面図形の「作図」や「課題学習」を指導する上での留意点について具体的な指摘がありました。

発表 I では、田口先生から、書くことや話すことを意識した活動を通して、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を目指した実践が紹介されました。研究成果の 1 つとして、授業の中にグループ活動の場面を設けることで、生徒が仲間と教え合う学びのよさを実感できたことが報告されました。

発表 II では、麻生先生から、数学に苦手意識を持つ生徒に対し、習熟度別（少人数）授業を行い、義務教育段階の学習内容の確実な定着を目指す指導の工夫について紹介されました。研究成果の 1 つとして、本実践における経験を通して、学習意欲が高まり、計算力の向上とその確実な定着につながった生徒が多数いたことが報告されました。

発表 III では、粕谷先生から、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるために、生徒がペアになり、計算問題などを 1 分間、声に出して解く「音声計算トレーニング」について紹介されました。研究成果の 1 つとして、生徒全員が反復練習を必ず行うことで、成果を確認できると共に、定着率が高いことが報告されました。

関係の先生方の御協力に、改めて感謝申し上げます。

3 平成 23 年度公立高等学校入学者選抜学力検査における数学の結果

平成 23 年度入学者選抜は、前期選抜及び後期選抜において学力検査を実施しました。前期選抜と後期選抜の平均点は、それぞれ 48.8 点と 50.2 点で前年度と比べて、それぞれ 3.1

点と 4.8 点高くなりました。内容別の正答率は、後期選抜の「数と式の計算」が 76.8 % で最も高く、次に前期選抜の「数と式の計算」が 75.7 % でした。また、正答率が最も低かったのは、前期選抜の「三平方の定理」が 2.5 %、次に後期選抜の「三平方の定理」が 7.3 % でした。無答率については、後期選抜における「数量関係」領域の「一次関数」大問 4 (2) が 61.8 % で最も高く、次に前期選抜における「図形」領域の「命題の証明」大問 4 (1) の証明の記述で 58.9 % でした。

4 教科研究員（平成 23・24 年度）

平成 23・24 年度の数学科教科研究員を、次の方々にお願ひしました。教科研究員の先生方には、2 年間かけて数学科における指導の内容や方法について実践的かつ具体的な研究を行い、その成果を報告書としてまとめていただくこととなります。

吉田 美佳子	(市川東高等学校)
工藤 秀昭	(八千代高等学校)
横田 重幸	(県立柏高等学校)
豊島 利文	(沼南高等学校)
花房 淳	(市原緑高等学校)

5 高等学校訪問

指導課では、学力向上のための学習指導の改善及び特色ある学校づくりの支援に加え、学校運営上の課題解決のために支援をおこなうことにより、「地域に開かれ、信頼される学校づくり」の一層の推進を図るため、本年度も高等学校訪問を実施しています。本年度は 19 校を訪問する予定です。

数学科では、各学校の先生方と共に、生徒の学習状況に応じた指導の在り方について、一緒に考えていきたいと思っています。